



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 173
16 November
2007

トピックス

人材育成

JICAセミナー「中央アジア・コーサカス防災行政コース」

国際会議への参加

国際防災会議(IDRC)
2007

アジア太平洋防災教育
ワークショップ

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.or.jp
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2007

●人材育成

JICAセミナー「中央アジア・コーサカス防災行政コース」

ADRCは、国際協力機構(JICA)からの受託事業として、2007年8月20日から9月14日にかけて、中央アジア・コーサカス地域の防災行政官を対象とした防災行政研修(今年度は第4回目)をロシア語で実施しました。同地域では洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害が多く発生し、複数の国に被害が及ぶことも稀ではありません。また、冬季は積雪も多く、雪解け時期に山岳氷河が洪水を発生させることもあり、これらの国々は共通の防災課題を抱えています。

参加国は、中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン及びコーサカス地域のアルメニア、グルジア、アゼルバイジャンの計8カ国で、中央及び地方の防災行政担当者ら計17名が参加しました。今年初めてトルクメニスタンから、2名の参加がありました。今年の6月にカザフスタン・アスタナで当研修の帰国研修員を集

めて実施したフォローアップワークショップにおいて、帰国後の活動の報告や意見交換で研修の成果が確認されましたが、その時課題として取り上げられていた帰国研修員による次期研修員に対する事前研修制度については、適正に実施されつつあり、研修員たちは研修に対して高い目的意識を持って参加していました。

研修員は中央官庁、地方自治体、研究機関、予報機関、メディア、医療、学校、広域防災基地、民間企業、NPO等を訪問し、講義を受け、施設を見学しました。これらの機関が持つ役割、技術、協力関係等、広範囲にわたり日本の防災について総合的に学びました。タウンウォッチングの実習、六甲山系での地滑り対策や砂防の現場、淡路島の野島断層、兵庫県合同防災訓練等を視察し、屋外での活動も行いました。

研修の最後に、PCM手法を用いたアクションプランの作成(3日間)を行いました。帰国後彼らが防災行政のリーダーとして、この手法を用いて様々なプロジェクトで活躍することが期待されます。当該地域内の防災情報ネットワークを確立するためにも、研修員同士の友好を大いに深めることもできた



立川広域防災基地 東京消防庁見学



ハザードマップ作り演習

(続き)

と考えます。

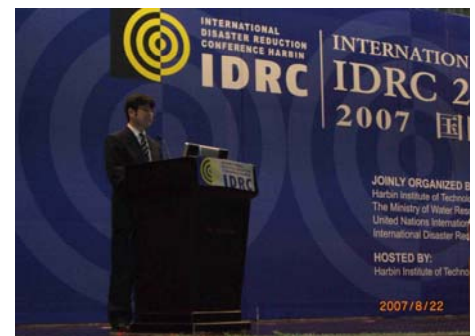
なお、当研修実施にあたり、快く訪問等を受入れいただきました各関係機関の皆様には、厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●国際会議への参加**国際防災会議(IDRC)2007**

2007年8月21日～25日、国際防災会議（IDRC）2007が中国・ハルビンにて開催されました。これは昨年スイス・ダボスで開かれたIDRC2006に続く二度目の会議となります。IDRC2006では全世界を対象としていましたが、IDRC2007では主にアジア地域に焦点が当てられました。自然災害、疾病、人的災害、テロ等のリスクに強く、持続的な社会の構築に向けた総合リスク管理の実施が会議のテーマです。

IDRC2007には、国際機関、各国政府、研究機関、NGO等、38カ国から約200名が参加し、また、約150もの論文の発表がありました。日本政府からは内閣府の河内紳吾氏（元ADRC研究員）が参加し、基調講演を行いました。また、ADRCの渡部弘之主任研究員が「インドにおけるサイクロン・リスク・スワップ取引に関する有効性指標の検討」、小鹿健平主任研究員が「インドネシア・ジャワ島南岸津波調査及び津波ハザード評価手法の提案」に関して発表を行い、活発な質疑応答が行われました。

今後も引き続きADRCの活動、研究成果等を広くアジアを中心とした国際防災活動へ役立てるべく、こうした国際会議等の場を通じて情報提供に努めていく所存です。



内閣府 河内紳吾氏

アジア太平洋防災教育ワークショップ

ADRCは2007年10月8～10日、タイ・バンコクで開催されたアジア太平洋防災教育ワークショップ（UN/ISDRアジア太平洋事務所他共催）に参加しました。このワークショップは、児童の災害に対する脆弱性を軽減し、死者数を減少させることを目標とし、被災地や危険な地域に位置する学校コミュニティの回復力向上を目指して実施されました。政府機関、教育機関、防災機関、国連機関、NGO、学術機関、被災国からの児童、教員など約300名が一堂に会しました。

(1) 防災の学校教育への統合、(2) コミュニティの回復力強化のための防災教育の強化、(3) 学校の安全性の向上、(4) 子供の防災力強化、といった優先項目に沿って活発な議論が繰り広げられました。ADRCからは、タイやスリランカにおける防災教育プロジェクト、JICA防災教育研修などの活動について紹介したほか、ポスターセッションでの展示も行いました。



ワークショップ風景

(続き)

ADRCは、今後もUN/ISDR等と協力しながら、アジア地域における防災教育普及の取り組みを推進して参ります。

*このワークショップは、UN/ISDRアジア太平洋事務所、UNESCO、UNICEF、UN/ESCAP、UNCRD、UN/OCHA、IFRC、ASEAN、ADPC、ASB（ドイツNGO）、ADRCの共催、AusAID、ECHO、世界銀行、GTZの後援により実施されました。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.or.jp までEメールをお寄せください。